

黒字倒産が起きる仕組み (黒字倒産その1)

平成 25 年 1 月作成



みなさんも一度は「黒字倒産」という言葉を聞いたことがあると思います。黒字ということは、会社としては儲かっているということ、でも倒産してしまう。なぜだろうかと不思議に思ったことはないでしょうか？今回は、この「黒字倒産」はなぜ起きるのか？ということについて簡単な数字を使ってお話ししてみたいと思います。

まず、100 万円で仕入れた商品を 200 万円で売却すれば 100 万円儲かります。黒字ですね。では、この商品を仕入れるための資金はどのように調達したのでしょうか？もちろん自己資金があればいいのですが、自己資金が足りない場合には借入等により調達します。

また、実際の商慣行としては、「掛け」取引や「手形」取引がよくおこなわれます。この掛け取引というのは所謂「ツケ」であり、今月分の取引の代金を翌月又は翌々月等にまとめて支払う約束により取引を行うことをいいます。

そこで、この「掛け」取引により買掛金の支払いは翌月、売掛金の入金は翌々月に行われるものとして、下記のような取引が行われることを考えてみましょう。仕入れのほかに給料等の毎月の経費 10 円はその月に払うものとします。売上利益率は 50%（10 円で仕入れたものを 20 円で販売）とします。

	期首	1月	2月	3月	4月	5月	6月	
資金	60	50	10	0	▲ 10	▲ 20	▲ 20	
	増加	0	0	40	50	60	70	
	減少	10	40	50	60	70	70	
取引内容								計
売上		40	50	60	70	80	90	390
仕入		30	40	50	60	60	60	300
その他の経費		10	10	10	10	10	10	60
利益		10	15	20	25	30	35	135
在庫		10	25	45	70	90	105	105

この表でわかるのは取引全体では毎月利益が出ています。しかし、資金の残高を見ると、4月でマイナスになってしまっています。どうしてでしょうか？

まず、取引自体は売り上げも仕入れも掛け取引で行われています。資金は当初 60 円を用意していました。1 月はとりあえず 30 円の商品を仕入れ、売上は 40 円ありました。このとき、仕入れの決済は翌月（2 月）に行い、売上の決済は翌々月（3 月）に行われます。

売上は毎月順調に増えています。それに伴って毎月仕入を増やしました。

そして。。4 月には売り上げは増えているにもかかわらず、入金される金額は 2 か月前（2 月分）の売り上げ 50 円しか入らず、一方で支払いは前月（3 月分）の 50 円と給料等 10 円、計 60 円が発生してしまい、ついに資金不足のため支払いができないこととなりました。その月の支払いができないということは、その後の事業活動が継続不可能ということであり、つまり倒産してしまいます。損益計算では利益（1 月～4 月分、10 円+15 円+20 円+25 円＝70 円）が出ているにもかかわらず、資金繰りに失敗した結果、倒産してしまったということです。

以上、黒字倒産が起きるケースの一つを解説しました。

次回は黒字倒産を避けるにはどうすべきかを考えてみたいと思います。